

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
計画名称				
1		審議会	・住生活マスタープランという正式名称ではなかったが、これからは仮称という括弧書きを取り払って、住生活マスタープランという形で出す。	・これまで住生活に関する総合的かつ基本的な計画として議論し、「マスタープラン」という用語も一般に定着してきたと考えられることから、「住生活マスタープラン」としたい。 なお、関係法令も「住生活基本法」となっている。
2		審議会	・「住」と「生活」の間に中黒を入れる必要はあるのか。	
3		意見聴取	・これ以外ないのかと思ってきたが、もし変えられるのであれば、「足立区住生活向上基本計画」という日本語が良い。	
計画全体				
4		審議会 意見聴取	・公営住宅の偏在解消として、公営住宅を減らすという意味合いのことが書かれているが同意できない。公営住宅の偏在解消や一定の成果が得られているという表記は削除すべき。 ・住生活の向上というなら、安価で良質な住宅を増やすべきであり、減らすというのは逆行する。加えて高齢化と若年層の貧困化、中間層の疲弊が指摘されているが、こういう中で公営住宅を減らすことは住民ニーズに反する。 ・また、総数を減らしてしまつては、公営住宅に若い世帯を増やす方向の障害を作ることになる。 ・一気に大量に増設することはできないかもしれないが、計画的に増やすことはできると思うし、やるべきである。	・都営住宅は、都内全域でバランスよく住宅セーフティネットを構築するという立場をとっている。 ・公営住宅が集中していることは、福祉需要の財政への圧迫と税収不足の原因の一つであることは否めない。足立区が基礎的自治体として自立した自治体経営を求められていることから、23区における公営住宅の偏在解消に取り組んでいく必要があると考えている。 ・住宅セーフティネットについては、高齢者から若年層までの住民ニーズに、公営住宅の役割として応えていくとともに、不動産関係団体等と連携を図り民間賃貸住宅などのあり方についても検討していきたい。 ・また、地域包括ケアシステム等の福祉施策とも連携し、高齢者や子育て世帯等が安心して暮らすための支援を行っていく。

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
序章 はじめに / (修正後) 第 1 章 計画の策定にあたって				
5	1 ページ	審議会	・東京都住宅政策審議会の答申のことが記載してある。答申を受けて東京都住宅マスタープランの案を公表しているので、そちらの記載にした方が分かりやすくなると思う。	(p.1)修正対応
6	5 ページ	意見聴取	・協創の考え方を否定するものではないが、区の立場・役割が後景においやられ、あいまいになるのではないかと。区がしっかり役割を果たせるよう、どこかに書き込む必要がある。	(pp.4-9)修正対応 ・「序章」と推進体制や区の役割について記載していた「第 5 章」を、「第 1 章」として再編し、行政や区民の役割を明確にした。
第 1 章 住生活における現況と課題 / (修正後) 第 2 章 住生活における現況と課題・方向性				
7	12 ページ	審議会	・公営住宅の偏在解消の中で、「公営住宅の偏在の影響は、特別区部の中で 2 番目に高い高齢化率や特別区部で最も多い生活保護者数に表れている。」という表現がある。ここに住まわれている方の心情を考えると、適切な表現なのか。	(p.16)修正対応 ・「このことは、足立区が特別区部の中で高齢化率が 2 番目に高く、生活保護者数が最も多い原因の一つと考えられる。」と修正した。
8	12 ページ	意見聴取	・公営住宅の偏在解消は、不適切であり削除すべき。たとえば住生活の充実の柱の一つとして、公営住宅の増設を位置づけ増やしていく。コミュニティの形成、自治会活動の維持・発展の観点からも若い世帯が入居できる仕組みを広げる。公営住宅が多い自治体としての強みを発揮し、“支えあいのまちづくり”をアピールしていく。などと書き換える。	・公営住宅の偏在解消に関する考え方は、項番 4 参照。
9	12 ページ	意見聴取	・UR 賃貸住宅が「12,244 戸」→「12,281 戸」	(p.16)修正対応

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
第2章 住生活の目指すべき姿と基本目標 / (修正後) 第3章 住生活の目指すべき姿と基本目標				
10	17 ページ	審議会	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標1について、「多様なライフスタイルを持つひと」というのが、一人の人間が複数のライフスタイルを持つようにも読めてしまう。 「様々なライフスタイルを持つ多様な人々が活躍できる」とするか、「多様な人々が活躍できる」とするののも一つの案だと思う。 	<p>(p.21)基本目標1【ひと】</p> <p>「足立に住みたい・住み続けたい 多様なライフスタイルを持つひとが活躍できる」</p> <p>→「足立に住みたい・住み続けたい <u>多様な人々</u>が活躍できる」と修正。</p>
11	17 ページ	意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> 【ひと】「足立に住みたい・住み続けたい 多様な人々が活躍できる」が良いと思う。 	
12	17 ページ	意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標2について、「足立のくらしを磨く」から「磨く」をとる。 	<p>(p.21)基本目標2【くらし】</p> <p>「地域が見守り支えあい 安全・安心に住まう足立のくらしを磨く」</p> <p>→「地域が見守り支えあい 安全・安心に住まう<u>足立のくらしを高める</u>」と修正。</p>
13	17 ページ	意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標3について、「歩いて楽しいまちを育てる」の「歩いて暮らせる」は、徒歩圏内で生活のすべてを賄うことができるという誤解を与えないよう留意する。また、公共施設再配置の動きとも整合しない可能性がある。 「まち」の目標である基本目標3と、「住宅」の質に関する基本方針Fがそぐわないのではないかな。 	<p>(p.21)基本目標3【まち】</p> <p>「区民が足立らしい地域の魅力を発見し 歩いて楽しいまちを育てる」</p> <p>→「足立らしい地域の魅力を発信し <u>歩きたくなるようなまち</u>を育てる」と修正。</p> <p>(p.49)基本方針F「質が高く将来に受け継がれる魅力ある住まいに暮らす」</p> <p>→「将来に受け継がれる魅力ある住まいに暮らす」と【まち】の目標につながるよう修正。</p>

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
14	17 ページ	意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 4 について、「地域に開き連携する」とあるが、何と何の連携かわからない。「連携する」を取って文章を整理する。 	<p>(p.21)基本目標 4 【行財政】</p> <p>「公共住宅等ストックを資源に 地域に開き連携する足立の新たな活力につなげる」</p> <p>→「公共住宅等ストックを地域に開き 足立の新たな活力につなげる」と修正。</p>
第 3 章 施策の推進 / (修正後) 第 4 章 施策の推進				
15	22 ページ	意見聴取	<p>A-1「若年世帯向け住宅の供給促進と取得支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年世帯向け住宅の供給促進と取得支援に関連して、家賃補助制度を創設することをうたい書き込んでほしい。 	<p>(p.26)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自力で住宅を確保できない世帯については、福祉施策等と連携によりセーフティネット機能を維持しながら、自立を促していくことも必要だと考えている。 また、都営住宅及び区営住宅の総数は 23 区で最も多い約 3 万 2 千戸であり、区内におけるセーフティネット機能は充実していると考えている。財政負担も生じるため、家賃補助制度の創設は考えておりません。
16	23 ページ 43 ページ	審議会	<p>A-3「多様な居住ニーズに対応した既存ストック活用」</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都住宅マスタープランの素案は、空き家の部分を踏み込んで記載しているので、参考にしてほしい。 法令遵守は当然必要だが、活用が進まない要因を検討して、必要があれば基準の見直し等も検討するなど、何ができるかを考えていただきたい。 	<p>(p.28)修正対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京都を参考に、「適切な情報提供や指導」や「既存ストックの活用を促進する環境を整備」について記載した。
17	23 ページ	審議会 意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> シェアハウスはすべてが悪ではないが、シェアハウスの名を使って劣悪な住居を提供するものもある。適切な規制をしながら、同時に若い世代が豊かな住生活を送れるような方向への誘導や対策が大事になると思う。 法令を遵守した活用がなされるようというのは重要で、基 	<p>(p.28)住宅の適正立地を検討し、適切な供給誘導を図るとともに、開発に関わる規制等に基づき適切な開発誘導を行うこととする。</p>

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
			準もより明確にし、指導に当たれるようにすること。重層長屋についても基準を明確にして指導できるようにしていくべき。	
18	27 ページ	審議会	・町会・自治会の面が薄いのではないかと。町会・自治会の加入率が半分程度で、役員も高齢化している。それに子供会が解散している状況が多くある。	(p.32)施策の展開 B-1 として、町会・自治会加入の促進などによる多世代居住・交流の実現とコミュニティ形成を記載している。
19	29 ページ	審議会	・防災について、中南部一帯が特区に指定されていて、西新井駅周辺は助成があるが、それを外れると支援策がない。マスタープランとリンクして、支援策を拡充していくことが大事だと思う。	(p.35)基本方針 C ・基本方針 C として、防災・防犯に対する安全・安心な住まいについて記載している。 ・具体的な支援策については、中南部一帯地区の木造密集地域の助成の拡充をプレスリリースしたところ。
20		審議会 意見聴取	・区民の高齢化、単身世帯化、多国籍化、貧困化(特に若年層の貧困化)が進むなかで、生活そのものへの支援策が必要。雇用対策・家計支援・寄り添い支援などとともに、教育・保育費用への助成、住宅費の軽減などで、所得・収入の増につながる対策と、低収入でも良好な環境の住宅に住める対策の両面から施策を展開していくことが大事だと思う。	(p.40)基本方針 D ・高齢化や単身化等に対応した居住支援としては、生活全般に対する支援が必要なケースが多く、地域包括ケアシステムなど福祉施策等との連携が不可欠である。 ・自力で住宅を確保できない世帯については、福祉施策等と連携によりセーフティネット機能を維持しながら、自立を促していくことも必要だと考えている。
21	34 ページ	意見聴取	D-1「人にやさしい住まいリフォームの推進」 ・リフォームの意味が本編で書かれているが、古くなった家をリフォームして長寿命化し、また快適・安全に住めるようにする住宅リフォームについて、支援をすることも大切だと思う。	(p.40)高齢者や障がい者などが安心して暮らせる住まいリフォームの推進のための具体的な施策として、「住まいの改良助成制度」「高齢者住宅改修事業」「障がい者住宅設備改善事業」などを記載している。

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
22	34 ページ	意見聴取	<p>D-2「住宅セーフティネットの充実」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅セーフティネットの在り方を検討するのはいいことだと思う。その中では「居住支援協議会」の設置と機能発揮が重要であり、書き込むべき。 	<p>(pp.40-41)修正対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他区の動向から、居住支援協議会の設立には居住支援策の具体化が必要であると認識している。 ・居住支援の必要な方は、生活全般に対する支援が必要なケースが多く、地域包括ケアシステムなど福祉施策等との連携が不可欠である。 ・そのため、居住支援協議会の設置については、継続して検討する。
23	17 ページ	意見聴取	<p>基本方針 E「地域の魅力を発信し、まちを成長させる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の方向の 6 項目が内容的に重複している。魅力を創る視点と魅力を PR する視点で再整理する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) シティセールスの推進 2) エリアマネジメントの推進 3) あだちに暮らす魅力の創造 4) 歩いて暮らせる生活環境づくり 5) 地域住民による魅力発見 6) 情報発信・開示の強化 	<p>(pp.43-45)施策の方向を 4 項目に再編した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 足立に暮らす魅力の創出 2) 快適に歩ける生活環境づくり 3) シティセールスと地域住民による魅力発見・発信 4) 区民等への情報発信・開示の強化
24	38 ページ	意見聴取	<p>E-4「歩いて暮らせる生活環境づくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歩いて暮らせるまちづくり」は重要だと思う。その中に、「買い物難民対策」(買い物困難地域の解消など)を入れていく必要がある 	<p>(p.44)修正対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の展開 E-2 の主な施策として、「買物弱者対策」を追加した。
25	39 ページ	意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> ・区の現行の施策や制度について実行内容の記載も必要に思う。「住まいるインフォメーション」は区の施策や制度による実行の全体内容がわかりやすく紹介されている。 ・他区住宅マスタープランでも、上記のような施策のあるものも多くある。 	<p>(p.45)区の住宅施策を区民に向けてわかりやすく発信することは重要であると認識しており、施策の展開 E-4 の主な施策として、「住まいるインフォメーション」など区民向け情報の充実を記載している。</p>

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
26		意見聴取	<ul style="list-style-type: none"> どこかに描いてあるかもしれないが、住宅・住環境の木質化を位置づけていく必要があると思う。 	<p>(p.49)修正対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 施策の展開 F-1 の主な施策として、「住環境の木質化」を追加した。
27	46 ページ	意見聴取	<p>G-1「公営住宅の偏在解消と集約化」</p> <ul style="list-style-type: none"> 公営住宅の偏在解消と集約化は削除し、公営住宅の計画的な増設と、コミュニティの形成・自治活動の支援などを書き込んでほしい。 	<p>(p.53)都市計画マスタープランに合わせて文言修正</p> <p>G-1「公営住宅の偏在解消と集約化」 →「公営住宅の適正配置」と修正。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公営住宅の偏在解消に関する考え方は、項番 4 参照。
28	46 ページ	意見聴取	<p>G-1「公営住宅の偏在解消と集約化」</p> <ul style="list-style-type: none"> シルバーピアについて、その在り方を検討するとなっているが、シルバーピアをなくす、あるいは減らすということであれば同意できない。 高齢化社会にふさわしく高齢者向け集合住宅はますます必要で、より住みやすくして増やしていくべき。 	<p>(p.53)</p> <ul style="list-style-type: none"> 区営シルバーピアは、公営住宅と同様に戸数を増やすことを考えていないが、一定のセーフティネット機能を担っていると考えている。 一方で、一般の公営住宅に入居する高齢者が多い状況にもかかわらず、区営シルバーピア（現状 198 戸）とで受けられる行政サービスに差が生じている。 また、費用対効果からみても持続的な自治体運営の負担となっている。 「区営シルバーピアのあり方を検討」とは、区内の高齢者が安心して暮らせるよう、地域包括ケアシステムと連携した見守りなど高齢者の居住支援について検討する中で、シルバーピアのあり方も見直していきたいという主旨である。
29	48 ページ	意見聴取	<p>区内の事例「花畑団地リノベーション」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「リノベーション」は住棟改修を指す単語なので、「団地再生事業」という単語へ変更。その他も説明文を修正。 足立区内には現在、新婚世帯を対象とした家賃割引制度の対象となっている団地がないので、「区内のUR団地では、子育て世帯や若い単身者などを対象」と修正。 	<p>(p.55)修正対応</p>

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
30	48 ページ	審議会	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標 4 のところで、都営住宅の事例も載せていただきたい。 	(p.56)修正予定 (綾瀬七丁目の建替えを追加予定)
31	49 ページ	審議会 意見聴取	<p>H-1「ミクストコミュニティやソーシャルミックスの推進」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「子育て世帯の期限付き入居」は、期限付き入居を増やすことならば慎重にすべき。 公営住宅戸数を減らすという方針の中で、若年世帯を増やすとなれば高齢世帯を制限ということになり、また、若年世帯も期限が来ればその公営住宅から離れなければならないという矛盾を作り出す。 	<p>(p.57)</p> <ul style="list-style-type: none"> 入居が長期化する傾向にある公営住宅において、一部に期限付きを導入し入居期間を短くすることで、子育て世帯など一時的に住宅に困窮する世帯の入居を促進し、公営住宅の利用機会を拡大する。 また、子育て世帯の期限付き入居は、一定期間で入れ替わることにより、いつでも子どもがいるまちになり、学校の持続性やまちの持続性が高まる。そのため、高齢化率の高い地域に導入するなど、モデル的に検討したい。 検討にあたっては、期間満了で公共住宅を出た後も、区内に住んでいただけるような制度のあり方を考慮する。
32	23 ページ 43 ページ	審議会	<ul style="list-style-type: none"> 相続が発生すれば、自然と空き家が発生する。そういうときにどうしたらいいかが、地域の重要な問題になる。若い人にも住みやすいまち、町会、地域に持っていく。それと同時に、これからの子供たちにも良い環境の活動施設を作るということも、この問題の中に入れていただきたい。 	<p>(p.63)「既存ストックを活用した住まいづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き家対策については、施策の展開のほか、リーディングプロジェクトとして、「既存ストックを活用した住まいづくり」を掲載している。 具体的には、平成 29 年度に、プラットフォームづくりとして、今後の空き家の利活用についてモデル的に検討していく。
33	23 ページ 43 ページ	審議会	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の活用を阻害しているのは情報不足だと思う。素案には、情報という言葉が 3 か所くらい散りばめられていて、これは今後の住宅政策について、空き家に限らず重要な側面になってくると思う。 	
34	23 ページ 43 ページ	審議会	<ul style="list-style-type: none"> 空き家は、情報提供と合わせて支援策が大事だと思う。住生活マスタープランでも支援策を拡充していくという記述を入れていく必要があると思う。 	

項番	修正前の 該当箇所	指摘	内容	企画部会での検討を踏まえた 事務局対応
35		審議会	・各施策に関連した指標の目標数値が妥当なのか。例えば、住宅の耐震化率や不燃領域率は達成可能なのか。目標を定めても、はるかに届かないのであれば、目標を定めた意味合いも薄れてしまう。	・出典を基本計画としている部分は、基本計画に合わせた目標としている。基本計画に掲載されているものについては、区として一律、それを目標として取り組んでいきたい。
第4章 特色ある住宅地の展開 / (修正後) 第5章 特色ある住宅地の展開				
36	56 ページ	審議会	・5 地域区分の表記について住居表示とずれがある。また、自分の地域名が入っていない地域がある。	(pp.64-69)都市計画マスタープランに合わせて修正
37	56 ページ	審議会 意見聴取	・都市計画マスタープランは足立区を5 地域に区切り、関連性が非常に薄くなっている。都市計画マスタープランの区切りかたをもう少し工夫、あるいは細分化して地域の実態・特徴にかみ合うようにすることも検討していただきたい。	
38	62 ページ	審議会	・あだち型住生活モデルについて、一つの地域を一つの世帯階層で構成するよう誘導するものではないと書いてあるが、一般住民が見たときにどう思うか。モデルとしてのイメージを出したいということだが、そのモデルが逆効果になる可能性もある。	(pp.70-75)修正対応 ・第1節を「5 地域別の整備方針」、第2節を「ライフステージ別の住生活イメージ」として構成を修正し、地域を限定せずに、区民の様々な暮らし方のイメージを示すこととした。